
Aloft get info the air

聖奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

A l o f t g e t i n f o t h e a i r

【Nコード】

N 5 9 8 6 C

【作者名】

聖奈

【あらすじ】

遠い昔に辛い恋の経験をした少年、優人。昔の恋にトラウマを抱えながらも新に出会った女の子、翼と恋に落ちる。この二人が織り成す甘く、ほろ苦いラブストーリー！。

第一話（前書き）

初挑戦です。ちょっと短いですが、これからも頑張って連載していくので、どうぞよろしくお願いします。

第一話

俺は桜が舞う中、一人泣いていた。

出会い

「あゝ寒ッ」

そんな事を呟くのは俺、高城優人。特徴は青い眼。家系に外人は一人も居ない。突然変異でなつたらしい。それ以外は、普通の高校一年生。

「まじありえねえ……」

こいつは親友の荒木健太。健太の特徴は、明るい茶色の髪の毛と、有り得ないくらいに整った顔。まるで貴公子だ。

「あつ今日さ、転校生来るんだよね！」

「女？」

思わず聞き返す。

「おう。顔は知らないけどな」

知らなくて当たり前だ。と思いつつ、言葉には出さなかった。

「キーンコーンカーンコーン」

遠くで聞こえるチャイムの音。俺たちは全力疾走で学校に向かった。
「カラッ」教室のドアを静かに開ける。

「すいませーん！寝坊しましたあ！」

健太が大声で叫ぶ

「またお前等か。まあ良い。今、転校生の紹介しようとしてたんだ。席に着け」

転校生？そっか今日来るんだよな。可愛い子が良いなあ。

「おーい入って来い。」

そんな呼び掛けに

「はい。」と小さく答えて入ってきたのは、ちょっと長めの黒い髪の毛に白い肌の女の子。

別に可愛い訳じゃない。でも、なんだか彼女から目が離せなくなっていた。

「雪村翼だ。仲良くしてやれ。んー席は…高城の隣いけ。あの茶髪のやつだ。」

言い方は気に喰わなかったが、手をヒラヒラさせて合図した。すると翼は、笑顔を向けてきた。

『ドクンッ』

あ…この感覚、アイツ以来だな。…万里子、ちゃんと空に逝けたか？俺は忘れないからな…

「綺麗な眼だね。カラコン？」

いきなり声を掛けられた俺は、なんと答えれば良いのか判らなくなっていた。

「違う違う。これは本物だよ。」口を挟んできたのは、健太だった。そのあと三人で他愛のない話で盛り上がり、授業も流して、この日は家路についた…。

「ふー」

家に着くなりベットに倒れた俺は、大きなため息を吐いた。あの感覚…もう二度と無いと思ってた。何が似てるんだろう。一人で

「うーん」と唸っていると、

「お兄ちゃん。宿題手伝って！お願いッ」

コイツは妹の紗弥。小学五年生。

俺は極度の妹馬鹿だ。それは自分でも認めてる。

紗弥が可愛くて仕方ない。だからお願いも断れない。とゆう訳で、
「ん？宿題？良いよ。どこが分かんないんだ？」

俺は紗弥の宿題を一通り手伝い、この日はすぐに寝た。

第二話（前書き）

今回は繋ぎなのでかなり短いです。御了承下さい。すみません。 m

（ m

第二話

「ジリリリリ」

今日も不快な目覚ましで目をさます。今日は開校記念日だから、学校は休み。健太と遊ぶ予定だ。

俺はいつものように、準備を始めた。

右ポケットにはタバコとライター。これは必需品。左ポケットには財布。

俺は基本的に鞆は持たない。なんか鬱陶しい。そして最後に髪を軽くセツトして準備完了！

九時に駅前だけど今から原チャで飛ばしても間に合わない。まあ出来る限り急ごう。そうして俺は出発した。

「ゴオオオオ」

ヘルメットしてないから、風の音がうるさい。もうすぐ駅。遠くにその姿を確認した。「健太！ごめんな？待った？」

恐る恐る聞いてみた。健太は振り返り、

「別に。」と言った。

これは完全に怒らせたな。健太は怒ると口には出さないが、態度に出る。今だって目も合わせてくれない。はぁ。面倒臭いことになった。機嫌とるの大変なんだよなあ。

そんな事を思いながら、ふと後ろを向くと、ちょっと先には紛れもない翼の姿があった。男と居る。なんだか揉めてるみたいだった。なんか苛々してきた。

俺は健太の事はそっちのけで、苛々と戦っていた。理性フル回転で考えた。

そもそも何で俺が翼と男が一緒に居るの見て苛々しなきゃなんねえんだよ。考えてみるよ。翼に男が居たって不思議じゃないじゃん…その時、

「バチッ」まわりに聞こえるような音が聞こえた。振り向くと、男が翼に殴り掛かるうとしていた。

それを見た俺は

「ブチッ」という音と共に走りだしていた。

「なあ翼、何やってんの？」

自分でも何やってんのか分からない。

「えっ！？高城君？」

「てか、お前誰？」

男が聞いてきた。でも俺はそいつをシカトして翼の手を引いた。

「おいコラ！てめえ待てよ」

後ろから声が聞こえる。それもシカトして、俺は歩き続けた。…健太の事はすっかり忘れて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5986c/>

Aloft get info the air

2011年1月27日07時41分発行